

「夢のある未来」へ。

イオン 環境・社会報告書 2010
Sustainability Report

まいにちのエコ、進行中。



イオンは今、環境への取り組みを全力ですすめています。
マイバッグ・マイバスケットのご利用、
生鮮品のバラ売り、リサイクル。そして、植樹まで。
私たちは、お客さまといっしょに心地よいまいにちをつなげたいと思います。
まいにちのエコ、ひろがっています。

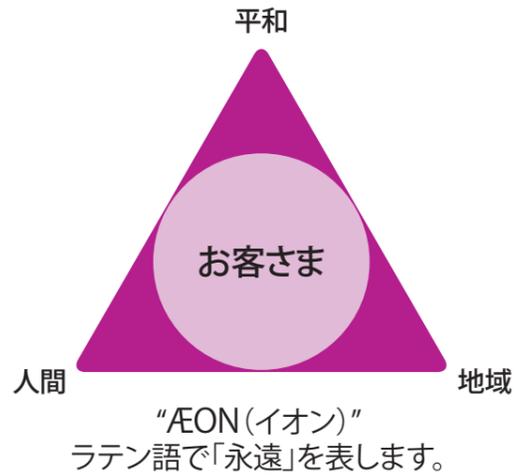
<http://www.aeon.info/environment/maieco/>



VOC (揮発性有機化合物) 成分ゼロの地球にやさしいインキを使用しました。



イオンの基本理念



イオンは「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という不変の理念を堅持し、その具現化のための行動指針である「イオン宣言」を胸に、「お客さま第一」を実践してまいります。

- 「平和」：イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。
- 「人間」：イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。
- 「地域」：イオンは、地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。

イオン宣言

イオンは、日々のいのちと暮らしを、開かれたところと活力ある行動で、「夢のある未来」(AEON)に変えていきます。

CONTENTS

イオンの基本理念	1	Highlight in 2009	11
イオングループの概要／編集方針	2	イオンの環境保全活動	
トップメッセージ	3	お客さまとともに	13
		商品を通じて	15
		店舗で	17
特集 「夢のある未来」づくりの、これから。		イオンの社会貢献活動	
視点① 地球温暖化防止		地域社会で	19
「イオン温暖化防止宣言」の現在地	5	世界で	21
視点② 生物多様性保全		ステークホルダーに対する責任	
持続可能な社会のために		お客さまとイオン	23
イオンの生物多様性の保全	7	お取引先さまとイオン	25
		従業員とイオン	27
視点③ 中国での活動		Webサイトのご案内	28
中国でもお客さまから		グループ環境最高責任者メッセージ	28
信頼され、愛される店舗運営を	9	イオングループ事業紹介	29

イオングループの概要

わたしたちは、イオンです。

イオンは、GMS(総合スーパー)を核店舗に、多彩な専門店が構成される広域商圏対応のモール型ショッピングセンター(SC)、毎日の暮らしに必要な専門店・サービス機能などを揃えた小商圏対応型SCなど、地域の特性に合わせたSCを展開しています。また、お客さまの健康的で豊かな生活をサポートするため

に、小型スーパーマーケットやコンビニエンスストア、ドラッグストア、総合金融サービスなどの多彩な事業を展開。日本国内だけでなく、中国やタイ、マレーシアなど、グローバルな「顧客満足業」として、「お客さま第一」の理念を堅持しながら「夢のある未来」の創造をめざしています。

グループ企業紹介
<http://www.aeon.info/company/group/>



編集方針

「GMS事業」「スーパーマーケット事業」を中心としたグループ各社の特徴的な取り組みを報告します。

2010年度は、純粋持株会社であるイオン(株)と、「GMS事業」「スーパーマーケット事業」を中心に、「環境」「社会」の両側面からグループ各社の取り組みを報告しています。報告項目の選定にあたっては、社会的な関心の高さやイオンが注力している取り組みなどを踏まえ、お客さまとともに取り組む環境保全活動や社会貢献活動、商品・店舗を通じた取り組みなどを取り上げるようにしました。また、「地球温暖化」「生物多様性」といった注目度の高い話題、拡大する「中国事業」などは「特集」として取り上げています。

Webサイトではより詳しい情報を報告しています。

Webサイトでは、取り組みの考え方や体制、パフォーマンス・データなど、より詳細な情報を体系的・網羅的に紹介しています。

イオン 環境・社会報告書(詳述版)
<http://www.aeon.info/environment/report/>

●音声ファイルのご案内

本報告書の内容を録音した音声ファイルをご用意しています。当社Webサイトからダウンロードいただけますのでご利用ください。

●対象範囲：純粋持株会社「イオン(株)」および「GMS事業」「スーパーマーケット事業」を中心とする、イオンの理念を共有するグループ企業196社(2010年2月28日現在)。なお、文中の「イオン」は、対象範囲全体を指します。対象範囲が一部の事業会社の場合は報告項目ごとに明示しています。

●対象読者：お客さま、株主さま、学生、グループ店舗の近隣住民の方々、お取引先さま、NPO、NGO、行政、投資家の皆さま、イオンピープル(グループ従業員)
 ●対象期間：2009年度(2009年3月1日～2010年2月28日)※
 ※決算時期が異なる一部の事業会社については、報告項目ごとに対象期間を明記しています。

ステークホルダーの皆さまとともに 「夢のある未来」を実現し、 サステナブルな社会の構築に 貢献してまいります。

イオン株式会社 取締役兼代表執行役社長

岡田元也



2008年秋に発生した世界同時不況の波によって、国内における消費不況は依然として続いています。こうしたなか、イオンが今後も成長し続けていくためには、ビジネスのあり方を根本的に変革することが必要です。根本的な変革とは、経済面を重視した施策を推進するだけでなく、中長期的な視野に立ち、環境・社会面も含めたバランスのとれた経営を推進し、ステークホルダーの皆さまとともに成長していくことであると認識しています。

企業は今、社会から「低炭素社会の実現」「生態系の保全」「地域社会への貢献」を求められており、こうした課題解決なくして持続可能な社会は実現しません。そんな時代であればこそ、サステナブルな経営を実践していくことが新たな成長への礎となると確信しています。

サステナブルな経営の基盤となるのは、「イオンの基本理念」「イオン行動規範」であり、イオンでは早くから環境保全活動や社会貢献活動を推進してまいりました。2009年度は、CO₂排出の総量削減をめざす「イオン温暖化防止宣言（2008年3月公表）」に基づき、店舗や商品での取り組みやお客さまとの協働を進めました。また、生物多様性の保全についての姿勢を「イオン生物多様性方針」として明文化しました。

地域のコミュニティや人々の暮らしに密接に関わる事業を推進するイオンは、常に「お客さまとともに」という姿勢を大切にしています。商品やサービスを提供することに留まらず、お客さまに地域の環境保全や社会貢献活動に身近で

参加できる機会を提供することが、地域社会の一員としての重要な役割と考えています。

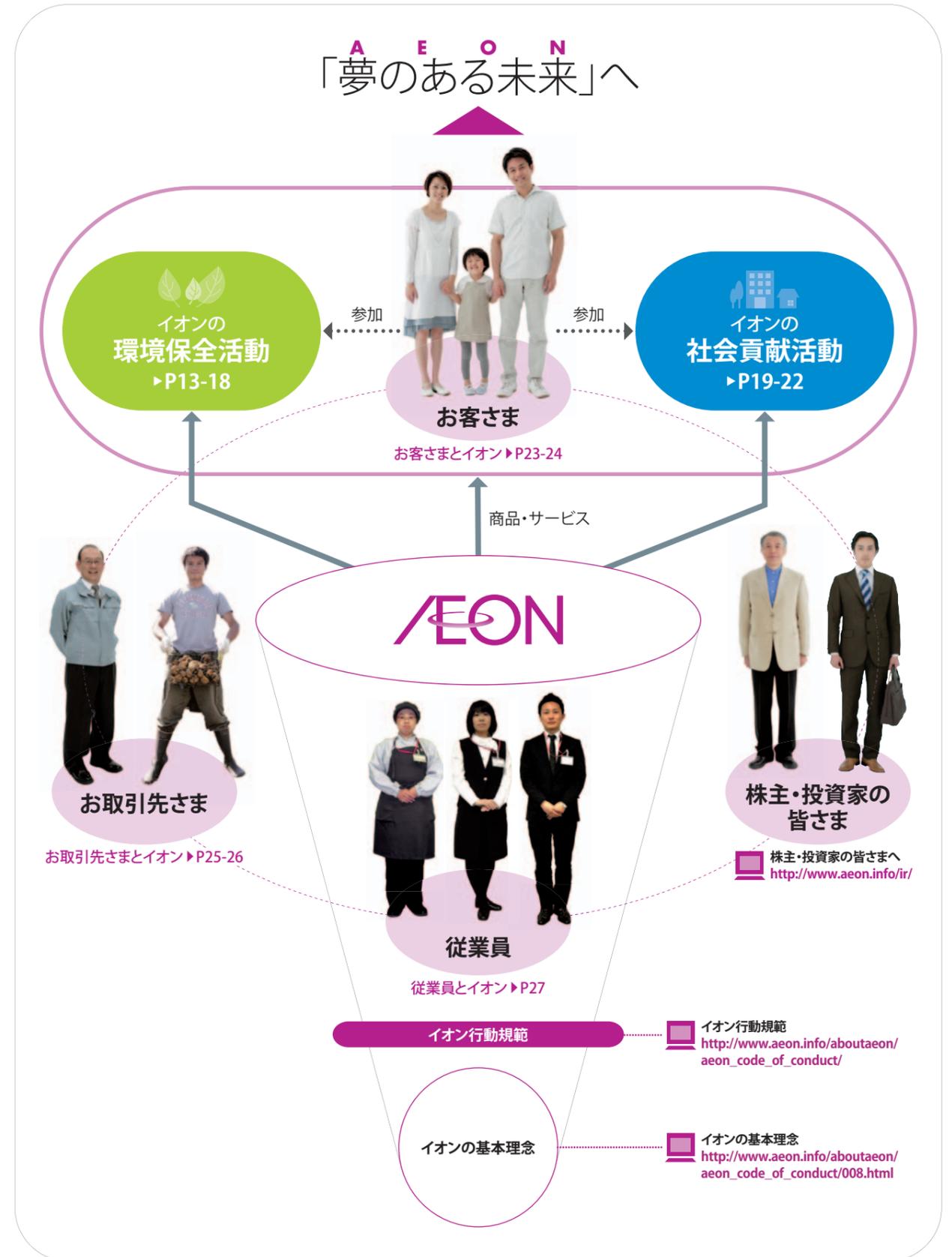
こうした考えに基づき、植樹活動や地域の団体を支援する「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」などでは数多くのお客さまに参加いただいています。今後もコミュニティへの参加を積極的に進め、地域の皆さまとのコミュニケーションを深めてまいります。

また、「イオンサプライヤーCoC（取引行動規範）」を策定し、製造委託先などサプライチェーン全体を通じた環境保全活動や適切な労働環境の確保に努めています。2004年には、国連が提唱する人権・労働・環境・腐敗防止についての10原則「国連グローバル・コンパクト」に日本の小売業として初めて賛同を表明すると同時に、労働市場の人権保護などを定めた国際基準「SA8000」認証を業界に先駆けて取得するなど、国際レベルの枠組みを経営の根幹に据えました。

あらゆる変革は、私たちイオンピープル一人ひとりの創意と行動によって実現するものです。イオンでは、従来からすべての従業員が持てる力を最大限に発揮できるよう、能力開発やキャリア形成を支援する制度を積極的に導入しており、今後も変革精神旺盛な人材育成に注力していきます。

そして、国内外のお客さま、お取引先さま、行政、NPOなど多様なステークホルダーの皆さまとの対話を通じて、イオンのミッションである「夢のある未来」を実現し、サステナブルな社会の構築に貢献してまいります。

イオンの社会的責任 イオンに参加すること、それは「夢のある未来」づくりに貢献すること





地球環境保全と企業成長の両立をめざすイオンは、2008年3月、「2012年度の二酸化炭素(CO₂)排出総量を2006年度比で185万t-CO₂削減する」という数値目標と、そのための具体的な取り組みを「イオン温暖化防止宣言」として発表。従来から推進してきた取り組みを一層加速していく決意をグループ内外に示しました。主な取り組み(目標)は、「エコストア」の展開をはじめとした「店舗での設備・仕組みによる削減(50万t-CO₂削減)」、商品の包装資材や輸送手段の変更、カーボンオフセット付商品の販売など「商品・物流における削減(57万t-CO₂削減)」、レジ袋の削減など「お客さまとともに取り組む削減(31万t-CO₂)」の3つで、これらに加えて「京都メカニズム」の活用も視野に入れています。

※京都メカニズム:海外で環境投資を行い、その投資によるCO₂排出削減量を削減実績に組み込むことができる「京都議定書」で認められた社会的なシステムです。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/manifesto/>

Special Issue 「夢のある未来」づくりの、これから。

視点① 地球温暖化防止

「イオン温暖化防止宣言」の現在地

	2012年度の削減目標 (2006年度比)	2008年度の実績	2009年度の実績
店舗で ※エネルギー起源	50万 t-CO ₂ 削減 ●エコストア化の推進 ●太陽光発電の導入 ●従業員による省エネ	24万 t-CO ₂ 削減	58万 t-CO ₂ 削減
商品・物流で	57万 t-CO ₂ 削減 ●環境配慮型商品の販売 ●商品の包装資材の変更 ●商品の輸送手段の変更	10万 t-CO ₂ 削減	24万 t-CO ₂ 削減
お客さまとともに	31万 t-CO ₂ 削減 ●レジ袋無料配布中止 ●植樹活動	15万 t-CO ₂ 削減	20万 t-CO ₂ 削減
京都メカニズムで	47万 t-CO ₂ 削減 ●京都メカニズムの活用	—	1万 t-CO ₂ 削減
合計	185万 t-CO₂削減	49万 t-CO₂削減	103万 t-CO₂削減

店舗で 「エコストア」の拡大
新型ソーラーパネルなど最新の省エネ技術を導入

従来型店舗と比較してCO₂排出量を20%以上削減することをめざすイオンの「エコストア」。開店1周年を迎えた「イオンレイクタウン」では、イオンの「エコストア」の旗艦店として先進的な取り組みを推進した結果、省エネ技術を導入しない場合と比較してCO₂排出量を約24% (11,000t-CO₂) 削減しました。また、2009年度はエコストア10号店として「イオン土浦ショッピングセンター(SC)」がオープン。新型ソーラーパネルなど環境に配慮した最新の技術や仕組みを採り入れるなどしてCO₂排出量の削減に努めています。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/environment/ecostore/about/>



イオン土浦SC 新型ソーラーパネル



イオンレイクタウン

商品・物流で 「カーボンフットプリント(CFP)商品」の拡充
国の検証を受けたCFP商品として初めての店頭販売を開始

「カーボンフットプリント(CFP)」とは、商品の原材料から加工段階、流通、消費、廃棄、リサイクルまで、商品の全ライフサイクルを通じて発生するCO₂排出量を商品に表示して“見える化”することです。イオンは、2010年1月からCFPを採用した「トップバリュ グリーンアイ 特別栽培米コシヒカリ 4kg」の発売を草津サティで開始。国が推進するカーボンフットプリント制度試行事業において検証を受けたCFPを表示した商品として国内初の店頭販売となり、注目を集めました。



特別栽培米コシヒカリ (トップバリュ グリーンアイ)

お客さまとともに CO₂排出量の削減に向けて
レジ袋使用量の削減を推進し、CO₂排出量を削減

イオンは、1991年から「買物袋持参運動」を展開しています。お客さまにマイバスケットやマイバッグをご持参いただき、レジ袋の使用量を削減することで、CO₂排出を抑えることをめざしています。2009年度は、約13億922万枚(連結対象企業の中の20社計)のレジ袋を削減しました。また、「レジ袋無料配布中止」実施店舗数は、704店舗(2010年2月28日現在 連結対象企業の中の19社計)に拡大しています。



福島県でレジ袋無料配布中止を開始

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/environment/mybag/>

Column 「日本気候リーダーズ・パートナーシップ(Japan-CLP)」に参加

イオンは2009年7月、持続可能な低炭素社会の実現をビジネスの視点からめざす日本初の企業ネットワーク「日本気候リーダーズ・パートナーシップ(Japan-CLP)」に設立メンバーとして参加しました。Japan-CLPは2009年12月、シンポジウムを開催して政策立案者や産業界、市民などに広く情報発信しました。また2010年4月には、「持続可能な低炭素社会の実現に向けた提言」を取りまとめ、発表しました。

衣・食・住——私たちの生活は、多くの自然の恵みに支えられています。ところが現在、その源である「生物多様性」が世界中で失われつつあり、食糧問題や水問題など、私たちの生活に大きな影響を与える懸念が叫ばれています。こうしたなか、イオンでは、1991年からイオンの店舗に関わる一人ひとりが自然環境や緑を育む心を養っていきけるよう、植樹活動を推進しているほか、子どもたちに環境学習や体験の場を提供するプログラムの実施、天然資源を適切に使用した商品の提供などを推進しています。さらに2010年3月には、生物多様性の保全に一層力を注いでいくために「イオン生物多様性方針」を策定しました。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/biodiversity/>

お客さまとともに「イオンふるさとの森づくり」
 「(財)イオン環境財団による植樹活動」
累計で9,229,303本を植樹

イオンは、1991年から横浜国立大学・宮脇昭名誉教授のご指導のもと、新たな店舗がオープンする際に、お客さまとともに店舗の敷地内に植樹を行う「イオンふるさとの森づくり」に取り組んでいます。また、(財)イオン環境財団は、国や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森を再生させることを目的とした植樹活動を行っています。これまでの累計植樹本数は9,229,303本※になっています(2010年2月28日現在)。



三宅島植樹

※「イオンふるさとの森づくり」と(財)イオン環境財団の植樹数の合算

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/maieco/treeplanting/>

商品で 持続可能な資源の活用
「MSC認証」「FSC認証」を受けた商品を販売

世界的に減少傾向にある水産資源。海の恵みを受け続けるために適切に管理された持続可能な漁業を認証するのが「海のエコラベル」と呼ばれる「MSC(海洋管理協議会)認証」です。イオンでは、認証を取得したアラスカ産の紅鮭、イクラなどを販売しています。また、適切に管理された持続可能な森の木であることを認証するのが「FSC(森林管理協議会)認証」で、イオンでは認証を受けた木材を原料としたノートなどを販売しています。イオンは、生物資源の持続可能性に配慮した商品を積極的に取り扱っていきます。



天然塩紅鮭(トップバリュ グリーンアイ)



MSC認証マーク



A4ノートブック(トップバリュ 共環宣言)



FSC認証マーク

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.topvalu.net/csr/>

店舗で 「エコストア」での取り組み
環境負荷を減少させる「エコストア」の開発

イオンは、建設資材のグリーン購入の推進や「エコストア」開発時の生物多様性への配慮を行ってきました。さらに、「イオン生物多様性方針」に基づいて、店舗開設時の生物多様性評価や負荷軽減策の立案・実施など、生態系保全と創出に配慮した店舗開発をめざしていきます。

Column

「生物多様性日本アワード」創設

(財)イオン環境財団と環境省は、2010年10月に愛知県名古屋市で開催される生物多様性条約第10回締結会議(COP10)を前に、「生物多様性の保全」および「生物多様性の持続可能な利用」を推進することを目的とした「生物多様性日本アワード」を創設しました。2009年10月には第1回授賞式を実施。顕著な貢献が認められた8団体の取り組みを顕彰しました。



授賞式

Special Issue 「夢のある未来」づくりの、これから。

視点 2 生物多様性保全

持続可能な社会のために イオンの生物多様性の保全

イオン生物多様性方針

基本方針

事業活動全体における、生態系への影響を把握し、お客さまや行政、NGOなどステークホルダーの皆さまと連携しながら、その影響の低減と保全活動を積極的に推進します。

わたしたちは、「生態系」について事業活動を通じ

1. 「めぐみ」と「いたみ」を自覚します。
2. 「まもる」「そだてる」ための活動を実行します。
3. 活動内容をお知らせします。

行動指針(抜粋)

1. **商品**: 持続可能性に配慮し資源管理された生鮮品やそれらの加工品についての目標を設定し、お取引先さまと共有しながら、仕入れ・販売活動を行い、お客さまにその情報を発信します。
2. **店舗**: 継続して店舗出店時の植樹活動をお客さまと推進するとともに、店舗の環境負荷を減少させるエコストアの開発を進めます。
3. **お客さまとともに**: 植樹活動などを通じて環境意識を皆さまと共有し学習してまいります。



イオンふるさとの森づくり
 (イオン土浦SC)

2009年度に中国でオープンしたジャスコ店舗



 1 嘉裕太陽城店 2010.1.29開店	 2 スーパーマーケット 將軍澳店 2010.1.23開店	 3 延吉路店 2009.12.18開店	 4 東方宝泰店 2009.10.1開店
 5 スーパーマーケット ウォーチェ店 2009.6.28開店	 6 新洲店 2009.6.26開店	 7 佛山保利水城店 2009.5.2開店	

Special Issue 「夢のある未来」づくりの、これから。

視点 3 中国での活動

中国でもお客さまから信頼され、愛される店舗運営を

Column

イオン(株)名誉会長相談役 岡田卓也が「北京市名誉市民」称号を受章

名誉会長相談役 岡田卓也は、1998年から実施している万里の長城植樹や四川省大地震の被災者支援、同市へのショッピングセンターの出店など、長年にわたる環境・社会貢献活動や、日中の民間レベルでの交流の発展に寄与したことが認められ、2009年5月、「北京市名誉市民」称号を受章しました。この「北京市名誉市民」は、北京市に貢献した外国人に与えられる最高位の称号で、日本人としては3人目となります。



北京市人民政府市長 郭金龙氏(写真右) 名誉会長相談役 岡田卓也



イオン北京国際商城SC

イオンの中国における活動は、1987年の香港1号店から始まり、1996年には広州市に中国本土1号店を出店しました。2008年にはイオンのグループ各社の総力を結集し、北京市の第1号店として市内最大規模のモール型SC(ショッピングセンター)「イオン北京国際商城SC」をオープン。2010年3月現在、イオンは中国国内にGMS(総合スーパー)25店舗、SM(スーパーマーケット)6店舗を展開しています。店舗展開にあたっては、日本で培ったSC開発・運営のノウハウを活かすことはもちろん、「安全・安心な商品の提供」と「環境・社会貢献活動の推進」を中国におけるイオンの使命と考え、さまざまな取り組みを進めています。

環境保全
中国でも植樹活動を推進

中国においても、店舗がオープンする際に実施する「イオンふるさとの森づくり」や(財)イオン環境財団による植樹活動を行っています。1998年からは「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始。2009年までに、日本・中国から延べ12,900人のボランティアが参加し、98万本を植樹しました。2010年4月には累計植樹本数が100万本に達しました。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/ef/>



万里の長城植樹

食の安全・安心
安心して買い物を楽しんでいただくために

商品の安全性について、中国でも高い関心が寄せられています。中国のイオン店舗では、食品売場・作業場の衛生管理技術と施設レベルの向上をめざすための中国の国家推奨基準「緑色市場」認証の取得を進めています。「緑色市場」の基準を満たすだけでなく、イオンが日本の店舗で培った衛生管理手法も導入して、安全・安心な商品の提供に努めています。



多数の商品が並ぶ野菜売場

社会貢献
「イオンスカラシップ(奨学金制度)」を実施

中国においても人材育成を目的に「イオンスカラシップ(奨学金制度)」を実施しています。2009年度は中国国内の4大学240人に対して支援を行いました。また、中国の各店舗では、図書館不足に悩む地元の小中学校に対して図書の寄贈や、障がいをもつ児童を対象とする学校への物品の寄付、地元の赤十字と共同実施する救急対応講座や献血活動など、地域のニーズに応えるさまざまな社会貢献活動を推進しています。



「イオンスカラシップ」認定証授与式

Highlight in 2009

イオンの環境保全・社会貢献活動ハイライト

2009年度の環境保全活動ハイライト

活動テーマ	2009年度の活動ハイライト
お客さまと一緒に取り組む環境保全活動	植樹活動 <ul style="list-style-type: none"> 「イオン ふるさとの森づくり」累計植樹本数が7,656,492本に ▶P7 (財)イオン環境財団による累計植樹本数が1,572,811本に ▶P7 中国 万里の長城での植樹活動を実施 ▶P9 
	買物袋持参運動 <ul style="list-style-type: none"> レジ袋無料配布中止実施店舗数が704店舗に拡大(2010年2月28日現在 連結対象企業の中の19社社) ▶P13 約13億922万枚のレジ袋を削減(連結対象企業の中の20社社) ▶P14 有料レジ袋の収益金約1億2,520万円を、地域や環境のために寄付 ▶P14 「カーボンオフセット付マイバスケット」を約38万個販売 ▶P14 
環境配慮型商品の強化	トップバリュ <ul style="list-style-type: none"> 国内初のカーボンフットプリントを表示した商品「トップバリュ グリーンアイ 特別栽培米コシヒカリ 4kg」を店頭販売 ▶P6 冬ギフトでカーボンフットプリント商品を販売 
	カーボンオフセット <ul style="list-style-type: none"> 「カーボンオフセットキャンペーン」を実施 ▶P16 ギフト商品の配送にともなうCO₂排出量のオフセットを実施 ▶P16 
	SELF+ SERVICE <ul style="list-style-type: none"> 衣料品をバイオエタノールに再生するプロジェクト「FUKU-FUKUプロジェクト」に参加 ▶P16 
環境負荷の少ない店舗運営	エコストア化の推進 <ul style="list-style-type: none"> エコストア10号店として「イオン土浦ショッピングセンター」オープン ▶P6 イオンレイクタウンで、当初のCO₂削減目標を上回る11,000t-CO₂を削減 ▶P17 ミニストップ(株)がコンビニエンスストアで国内初の「FSC認証」店舗をオープン ▶P18 

2009年度の社会貢献活動ハイライト

活動テーマ	2009年度の活動ハイライト
お客さま参加型社会貢献活動の拡充	イオン・デー(毎月11日) <ul style="list-style-type: none"> 「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」を通じて総額2億6,787万円相当の品物を寄贈 ▶P19 「クリーン&グリーン活動」を各店舗・事業所で継続して実施 ▶P20 
	イオン1%クラブ <ul style="list-style-type: none"> イオン1%クラブ20周年記念事業として以下を実施 <ul style="list-style-type: none"> 「イオンチアーズクラブ全国大会 in 富士山」 ▶P14 「イオン環境塾」 ▶P14 「ティーンエイジ・アンバサダー同窓会」 ▶P22 学校建設支援事業による東南アジアでの学校建設が累計326校に ▶P21 災害復興支援として、1億6,650万円を支援 ▶P22 
	ペットボトルキャップキャンペーン <ul style="list-style-type: none"> 途上国の子どもたち15万3,122人を支援 ▶P22
地域の防犯・防災	<ul style="list-style-type: none"> 608の自治体と防災協定を締結(2010年2月28日現在) ▶P20 緊急避難用大型テント「バルーンシェルター」を全国で合計28カ所に配備 ▶P20
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「小学生の田んぼ活動」を推進 ▶P15 「食育体験学習会」や「産地収穫体験ツアー」などグループ企業で食育活動を実施 
高齢者・障がい者の方々の支援	<ul style="list-style-type: none"> 「認知症サポーター」が17,637名、養成講座の講師役「キャラバン・メイト」が279名に ▶P24 「イオン社会福祉基金」を通じて福祉車両4台を贈呈、全国702の施設をボランティア訪問 ▶P20

2009年度のステークホルダーに対する責任ハイライト

活動テーマ	2009年度の活動ハイライト
お客さまへの責任	<ul style="list-style-type: none"> 「サービス介助士」の取得者が9,275名に ▶P24 「バリアフリー新法」の認定を新たに23施設で取得 ▶P24 
	お取引先さまへの責任 <ul style="list-style-type: none"> 漁業協同組合との直接取引が全国5カ所に ▶P26 全国各地で郷土の味を守り続ける生産者の皆さまとともに、「フードアルチザン(食の匠)」を展開 ▶P26 
従業員への責任	<ul style="list-style-type: none"> 「ポジティブ・アクション宣言」を策定 ▶P27 イオンリテール(株)が、次世代認定マーク「くるみん」を取得 ▶P27 

お客さまとともに

地球環境の未来のために。
お客さまと一緒に、できることから少しずつ。

たとえば、お買い物をする時に、
何気なくレジでもらっていた「レジ袋」を考えてみる。
こうしたことも、環境を守るにつながります。

Close Up

お客さま、市民団体、自治体の皆さまと一緒に取り組む
レジ袋使用量削減プロジェクト

「レジ袋無料配布中止店舗の 拡大計画」、推進中

毎日、多くのお客さまにお使いいただいているレジ袋。一枚一枚の原料はごくわずかですが、日本中で365日…と考えると、膨大な資源を消費していることに気づきます。そこでイオンは、地球温暖化の原因となるCO₂排出を抑えるとともに、原料である石油の節約、ゴミの削減につながるレジ袋の使用量削減に取り組んでいます。活動を開始したのは、1991年。お客さまにマイバスケッ、マイバッグをご持参いただくよう呼びかける「買物袋持参運動」を展開しました。2007年1月には、お客さまの環境意識の高まりを受けて、全国チェーンとして初めて「レジ袋無料配布中止」を開始（ジャスコ東山二条店）。現在は、「レジ袋無料配布中止店舗を2012年までに1,000店舗以上に拡大する」という目標を掲げ、各地域の市民団体、自治体と三者で協定を結ぶなど、地域の皆さまとともに取り組みを推進しています。



合計店舗数 (2007~2010.02時点)



(連結対象企業の中の19社計)

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/maieco/plasticbag/>

買物袋をご持参いただく取り組みが 省資源の効果をあげています

イオンは、1991年から、お客さまにマイバスケッやマイバッグをご持参いただいてレジ袋の使用量を減らすことで、省資源とごみの減量化につなげる「買物袋持参運動」を展開しています。

2009年度は、レジ袋辞退率が60.0%となり、「2010年度までに全店での買物袋持参率50%以上」という目標を1年早く達成することができました。

レジ袋辞退率と レジ袋削減枚数の推移

連結対象企業の中の20社計
(レジ袋辞退率は各社が出した年度最終月度数値の単純平均)



有料レジ袋の収益金を 地域や地球環境のために寄付しています

イオンは、有料レジ袋の収益金*を社会に寄付しています。収益金の半分は、店舗を置く地域の自治体や市民団体などを通じて、環境保全や地域貢献のための活動に役立てていただいています。残りの半分はCO₂排出権の購入に充て政府へ無償譲渡することで、日本の京都議定書の目標達成に貢献しています。

2009年度における収益金は約1億2,520万円でした。

*レジ袋の収益金=売価-(消費税+仕入原価)

「カーボンオフセット付マイバスケッ」で CO₂排出量の低減に取り組みます

イオンは、2009年4月から「カーボンオフセット付マイバスケッ」の販売*を開始しました。この取り組みは、イオンのマイバスケッの製造から店舗への運搬までの過程におけるCO₂排出量(1個あたり約1.76kg)を、CO₂排出権を購入することで相殺する(オフセットする)というものです。

2009年度は、約38万個の「カーボンオフセット付マイバスケッ」を販売しました。

*価格は通常のまま、CO₂排出権購入費は上乗せしていません。



マイバスケッ

未来を担う子どもたちの健全な育成をめざして 「イオンチアーズクラブ」の活動を行っています

「イオンチアーズクラブ」では、子どもたちが環境問題に興味を持ち、考える力を育てることをめざして、環境学習や体験の場を提供しています。

2009年度は全国で180クラブ、3,348人の子どもたちが活動に参加しました。イオンの店舗を拠点に「植物」をテーマとした活動を行ったほか、「ドイツに学ぶエコライフツアー」「イオン富良野自然塾」「全国大会 in 富士山」を実施しました。



全国大会 in 富士山

環境意識の向上に向けて 「イオン環境塾」をスタートしました

「イオン1%クラブ」設立20周年記念事業として、「イオン環境塾」をスタートしました。お客さまに環境問題への関心を高めていただくことを目的に、全国の主要都市において、著名学識者や活動家を講師に招いて講演会や環境イベントを実施しています。

2009年度は全国9都市で開催しました。



講演中のC.W. ニコル氏

「イオン1%クラブ」が設立20周年を迎えました

「環境保全」「国際的な文化・人材交流、人材育成」「地域の文化・社会の振興」を柱に、良き企業市民として地域社会への貢献活動を推進するため、1989年に設立された「イオン1%クラブ」。イオングループ優良企業各社が拠出した税引き前利益の1%を活用してさまざまな活動に取り組んでいます。20周年を迎えた2009年度は、記念事業として「イオン環境塾」を開始するとともに、「イオンチアーズクラブ 全国大会 in 富士山」、歴代の「ティーンエイジ・アンバサダー(小さな大使)」「P22」の同窓会を開催しました。

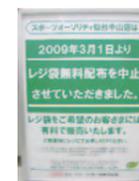
もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/1p/>

イオングループの環境保全活動 — スポーツオーソリティ

イオンの専門店事業でも「レジ袋無料配布中止」の取り組みを始めています

スポーツ用品専門店「スポーツオーソリティ」を展開する(株)メガスポーツは、イオンの専門店事業で初めて、「レジ袋無料配布中止」を開始。2009年3月から、スポーツオーソリティ仙台中山店および利府店で取り組みをスタートし、全国6店舗でレジ袋の無料配布を中止しています(2010年2月28日現在)。「スポーツオーソリティ」でのお買い物の際にも、お客さまにマイバッグの持参を呼びかけ、レジ袋の削減に努めています。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.sportsauthority.co.jp/environment/>



案内看板

商品を通じて

人に、地球環境に優しい商品をきちんとつくって、しっかりお届けするために。

安全で、環境に優しい。そんな商品が選ばれる時代です。イオンは、人と地球の未来から「選ばれる商品」を考え、提供していきます。

Close Up

たとえば、人と環境に優しい「トップバリュ グリーンアイ」のお米を子どもたちと一緒に作り、「食と生命、地球環境の関わり」を考える

「小学生の田んぼ活動」プロジェクトの可能性

「いただきます」という言葉の正確な意味を知っていますか？「いただきます」は、「生命(いのち)を頂戴する」時の言葉。もちろん、頂戴するのはお肉や魚だけではなく、大地に生まれた「お米」も大切な生命です。そんな生命の尊さ、生命を育む地球環境の大切さを全国各地の子どもたちに知ってもらうために、イオンは2008年から、各地の農業協同組合やNPO法人とともに、お米づくりを通じた食育活動「小学生の田んぼ活動」を推進しています。田植えから稲刈りまで、田んぼとの関わり合いを通じて、またおにぎり教室や店舗での販売体験、田んぼでのフナの子育ての育成※1などを通じて、子どもたちは食・生命・地球環境の関わりを学んでいきます。活動は、これまでの2年間で3県3校、約150人の小学生が参加し、2010年も3県3校での開催を計画しています。ちなみに、子ども



たちがつくるお米は、「トップバリュ グリーンアイ 特別栽培米」※2。収穫までに多くの手間と愛情を注ぐことが求められるお米です。

※1 滋賀県では、ニゴロブナの親魚を水田に放流し、産卵、孵化させて、水田で2cm程度に育った稚魚を排水路に放流して琵琶湖へ帰す「魚のゆりかご水田プロジェクト」を行っています。

※2 その生産地で通常使用される化学合成農薬・化学肥料の使用量を5割以下に減らして作ったお米です。



5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 発売



もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.topvalu.net/spot/rice/>

エコロジー商品ブランド「トップバリュ 共環宣言」を提案しています

お客さまとともに環境保全に貢献していきたい——そんな想いをもとに、イオンは2000年に、「リサイクル」「クリーン」「ナチュラル」という3つの視点からエコロジー商品ブランド「トップバリュ 共環宣言」を開発、発表しました。「環境に配慮しているから高価格で当然」という考え方ではなく、品質・価格ともにお客さまにとって真に魅力のある商品の提案をめざしています。



トイレットペーパー (トップバリュ 共環宣言)

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/store/hozen.html>

さまざまな工夫を重ねて物流にともなうCO2排出を抑制しています

物流にともなうCO2排出を抑制するために、イオンはトラック輸送から鉄道輸送に切り換える「モーダルシフト」を推進しています。トラック輸送においても、1台で多くの荷物を運べる大型車輦の活用や、店配車輦の帰便を活用して集荷をするなどして輸送効率を高めています。また、環境負荷の低い低燃費車の導入も進めています。さらに、2008年度からはソーラーパネルの導入など、物流センターのエコ化にも注力しています。

また、2009年度は「エコドライブ」※を推進。物流委託先と協働で「エコドライブ」講習会を全国23カ所で年2回行いました。優秀なドライバーさんへの表彰制度も一部の地域で開始しました。2010年度は、全国で展開していく計画です。



「エコドライブ」講習会

※エコドライブ：優しい発進を心がけたり、無駄なアイドリングを止めるなど燃料の節約に努め、CO2排出量を減らす運転のこと。

日本のCO2排出量低減に貢献する「カーボンオフセット商品」を販売しました

イオンは、お取引先さまと共同で、販売代金※1の一部でCO2排出権を購入して政府に無償譲渡する「カーボンオフセット」※2商品」を販売しています。

2009年度は、特定の食品・日用品を対象にした「カーボンオフセットキャンペーン」をグループ14社、約1,100店舗で実施。お取引先さまと共同で年間3,893t-CO2分の排出権を購入し、政府に無償譲渡しました。

また、「母の日」「父の日」「お中元」「お歳暮」ギフト全商品を対象に、商品の配送にともなうCO2排出量をオフセット。お取引先さまと共同で年間3,947t-CO2分の排出権を購入し、政府に無償譲渡しました。

※1 商品価格・送料は通常のままで、CO2排出権購入費は上乗せしていません。
※2 カーボンオフセット：企業などが温室効果ガスの排出量削減の努力をし、削減が困難な部分については、ほかの場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収などを購入したり、排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施することにより、その排出権を埋め合わせることをいいます。「カーボン・オフセットの取組に係る信頼性構築のための情報提供ガイドライン」(環境省)よりカーボン・オフセットフォーラムWebサイト (<http://www.j-cof.org>) 参照

カーボンオフセットの仕組み



※1個あたりのCO2排出量は、大手宅配運送会社ホームページより参照しています。

イオングループの環境保全活動—— SELF+SERVICE (セルフ サービス) 衣料品をバイオエタノールに再生するプロジェクトに参画しています

イオンリテール(株)が運営する衣料品・雑貨の専門ショップ「SELF+SERVICE」(セルフ サービス)は、2003年から衣料品の回収と、リサイクル用途の拡大を進めています。2009年度は約17,000枚の衣料品を回収しました。また、2010年1月には衣料品をバイオエタノールに再生する「FUKU-FUKU(フクフク)プロジェクト」[事務局:日本環境設計(株)]に参画。国の支援のもとで実施されているこの取り組みにおいて、「SELF+SERVICE」18店舗で4,000枚の衣料品を回収しました。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.self-service-jp.com/>



「FUKU-FUKUプロジェクト」ポスター 衣料品回収BOX

店舗で

地球環境との共生を見据えた店舗運営、「エコストア」を考える。

昨年、近所にできた大きなショッピングセンター。休日には、たくさんの人々が賑わっている。ところで、環境配慮はどうなっているのだろう。



開店1周年。人と自然に“心地いい”をコンセプトに開発された大規模商業施設の今、そしてこれから

国内最大級のエコ・ショッピングセンター「イオンレイクタウン」の取り組み

2008年秋、埼玉県越谷市に誕生した「イオンレイクタウン」は、「自然に心地いい。わたしに心地いい。」をコンセプトに開発された日本最大のエコ・ショッピングセンターです。湖のほとり、緑豊かな22万4,000m²もの敷地内にあるkaze、moriという2つの街区では、ソーラーパネルや壁面緑化など最新の技術や仕組みを数多く採り入れ、環境保全の取り組みを推進。1周年を迎えた2009年には、当初のCO₂削減目標9,000t-CO₂を上回る11,000t-CO₂の削減を達成しました。また、ハード面だけでなく、国内外のアーティストによるエコアート展示や、各種エコ情報の発信など“エコを楽しむ、学ぶ、行動する場”としての役割を担っています。



ソーラーパネル
合計面積は国内商業施設最大の4,000m²。50×25mプール4面分の大きさで、年間約41万kWhの発電を行い、約175トンのCO₂排出量を削減します。



壁面緑化
建物の一部の外壁に断熱効果が高い「壁面緑化パネル(苔タイル)」を設置。館内温度を快適に保つ効果があります。



ハイブリッドガスエコシステム
熱源システムに高効率な「ハイブリッドガスエコシステム」を導入。CO₂の削減に貢献しています。



「Act Green」
イオンレイクタウンと市民や行政、企業が一体となって取り組むエコな街づくり活動「Act Green」。情報発信やイベント開催など多彩なエコ活動を行っています。



「エコ探検ツアー」
毎週土曜日に施設内のエコへの取り組みを見学いただく「エコ探検ツアー」を実施しています。2009年度は、1,148の方が参加しました。



従業員の省エネ活動
店舗や事務所の省エネ活動に従業員が積極的に取り組んでいます。電力使用量をグラフ化するなど、意識の向上を図っています。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/environment/ecostore/about/>

紙パックや食品トレイを回収して資源循環に役立っています

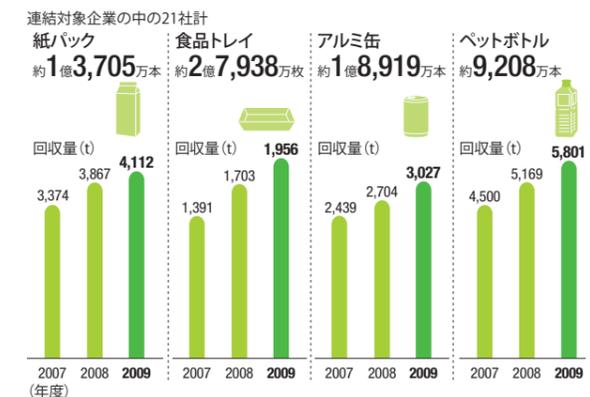
紙パックや食品トレイ、アルミ缶、ペットボトルは、リサイクルできる大切な資源です。イオンの店舗では、これら資源の回収ボックスを設置して、お客さまにリサイクルのご協力を呼びかけています。

回収した紙パックやアルミ缶は、再資源化してその一部を「トップバリュ 共環宣言」(P16)の原料として活用。また、食品トレイやペットボトルも適切にリサイクルされています。イオンは今後も、循環型社会の構築に向けて積極的に取り組んでいきます。



回収BOX

容器別店頭回収量



もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/store/reuse.html>

食品の「リサイクル・ループ」を構築し、食品廃棄物の有効利用に努めています

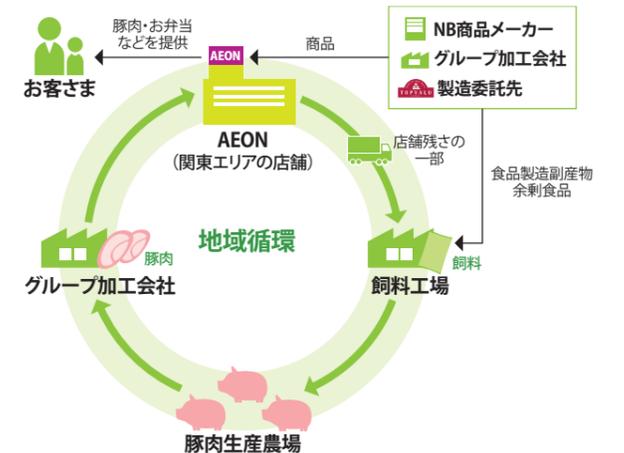
イオンは、店舗で発生する食品廃棄物の排出抑制に努めるとともに、資源としての有効利用を推進しています。

2008年5月、現イオンリテール(株)は、2007年12月の「改正食品リサイクル法」施行後、日本の小売業で初めて「再生利用事業計画」の認定*を取得しました。これにより、店舗で発生した食品廃棄物の回収、回収した廃棄物の飼料化、その飼料で飼育した豚を再びイオンの店舗で販売するという循環型モデル「リサイクル・ループ」を構築。2008年6月以降、関東エリアの一部店舗において、リサイクル飼料で飼育された豚肉を販売しています。

2008年度のイオンリテール(株)の食品リサイクル率は、36.2%でした。食品小売業は、2012年度までに、食品リサイクル率45%を達成することが求められています。イオンは、この目標達成に向けて食品リサイクルの取り組みをより一層推進していきます。

*認定を受けた再生利用事業計画に従って行う食品循環資源の収集運搬は、一般廃棄物収集運搬業の許可が不要となるため、市町村の区域を越えて広域的に収集することができ、効率的な回収が可能となりました。

地域で完結する循環型社会の構築



イオングループの環境保全活動——ミニストップ(株) コンビニエンスストアで国内初の「FSC認証」店舗がオープンしました

ミニストップ(株)では環境に配慮した店舗づくりに取り組んでいます。2009年12月、コンビニエンスストアで国内初の「FSC認証」店舗となる、ミニストップ越谷レイクタウン東店を出店しました。使用している木材は100%国産のFSC認証材で、施工プロセスも含めた建物全体でFSC認証を受けています。さらに、看板の照明を従来の蛍光灯からLED照明に変更するなど、店舗設備の省エネ化にも取り組んでいます。今後も、国産FSC認証材を100%使用した店舗の出店を通じて、京都議定書で日本が宣言した森林によるCO₂削減に貢献していきます。

もっと詳しく知りたい方はこちら
http://www.ministop.co.jp/eco_social/



工事中の店舗



ミニストップ店舗(イメージ)

地域社会で

地域の皆さまと一緒に取り組む、もっと豊かな社会づくり。



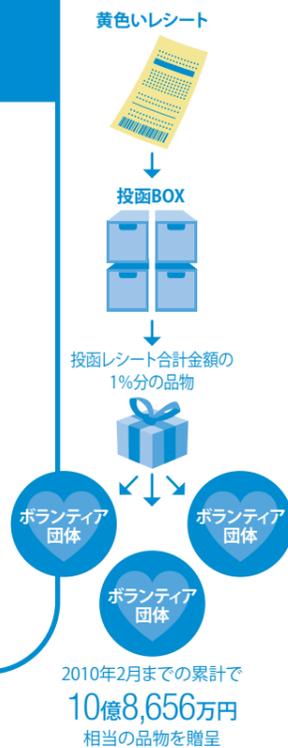
私たちがくらす社会には、サポートを必要としている人々があります。
「そんな人々を支援、応援していきたい。」そういう気持ちを大事にしたいから。

Close Up

たとえば、地域のボランティア団体と
お客さまの“応援したい気持ち”を身近で結ぶ取り組み

「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」

地域社会には、サポートを必要としているボランティア団体がたくさんあります。一方で、そうした団体の活動を「応援したい」という気持ちをお持ちのお客さまもたくさんいらっしゃいます。けれども双方ともに、サポートや応援を実現していくための方法が限られているのが現実です。そこでイオンは、地域社会の一員としてより大きな役割を果たしていけるよう、2001年から、お客さまとともにボランティア団体を応援する「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」を実施しています。この活動は、毎月11日の「イオン・デー」にお客さまにお渡しする黄色いレシートを、地域のボランティア団体の活動内容が書かれた備え付けの箱に投函いただくことで、イオンが投函レシート合計金額の1%分の品物を地域のボランティア団体に寄贈するというものです。これによって、ボランティア団体は多くの方に活動を知ってもらうことができ、お客さまも自分が応援したい身近な団体をサポートすることができます。2009年度は21社1,344店舗で活動を実施、28,926団体に総額2億6,787万円相当の品物を寄贈しました。



もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/social/aeonday/>

店舗周辺の清掃・美化活動に取り組んでいます

イオンは、店舗周辺の街並みの美化に積極的に取り組んでいます。1991年から実施している「クリーン&グリーン活動」は、従業員がボランティアで店舗の周りの公園や河川敷、公共施設の周辺を清掃する取り組みで、2001年からは毎月11日の「イオン・デー」に実施しています。



店舗周辺での清掃活動

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/social/aeonday/>

避難用の大型テントを各拠点に配備しています

地震などの災害に遭遇した時に備えて、イオンでは2004年から緊急避難用大型テント「バルーンシェルター」の導入を進め、全国のショッピングセンターを中心に合計28か所にテントを配備しています(2010年2月28日現在)。軽量で運びやすいため、緊急時には近隣の拠点に配備したテントを被災地に運び込むことができます。



バルーンシェルター

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/social/bousai/>

「防災協定」の締結を進めています

イオンは、店舗で働く従業員に、常に地域の一員として行動するよう求めています。それは災害時も同様で、万一の際に地域の皆さまのお役に立てるよう、地方自治体への協力支援を約束する「防災協定」の締結を全国各地で進めています。

2010年2月28日現在、グループで1,099の店舗・事業所が608の自治体と防災協定を結んでおり、災害時には救援物資を提供したり、避難場所として駐車場スペースを提供することになっています。ほかにも共同で防災訓練を実施するなど、地域の防災活動に協力しています。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/social/bousai/>

イオングループの社会貢献活動——マックスバリュ西日本(株)、マックスバリュ中部(株) 安全・安心な街づくりのために、警察や自治体と連携して防犯に努めています

マックスバリュ西日本(株)は、店舗が所在する各県の警察本部との連携のもと、「110番の店」として防犯に努めています。「110番の店」は、犯罪の被害にあわれたお客さまの一時的な保護、救急車の手配、警察への通報などを行う役割を担っており、店舗の入口に目印として「110番の店」シールを貼るとともに、防犯訓練を定期的に行っています。また、マックスバリュ中部(株)も、三重県、愛知県の警察本部と連携して「110番の店」の取り組みを行っています。



「110番の店」マックスバリュ西日本(株)

地域の文化の振興に取り組んでいます

イオンは、地域社会の一員として、地域に伝承されている文化や伝統を尊重し、地域文化の振興に取り組んでいます。各地の地域行事・伝統行事に積極的に参加し、その文化、歴史の次世代への継承の支援、運営に対する積極的な協力を行っています。2009年度は、盛岡のさんざ踊り、高知のよさこい祭り、大四日市まつりなど多数の地域伝統行事を支援しました。また、地域の文化行事やスポーツフェスティバルなども支援しています。



高知よさこい祭り



盛岡さんざ踊り

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/1p/>

障がい者の方の自立促進・福祉向上のための基金を運営しています

イオンは、1977年に「イオン社会福祉基金」を設立し、障がい者の方の自立と社会活動への参加促進、障がい者福祉の向上のためのさまざまな支援活動を実施しています。イオンの労使による毎月50円(労使双方で100円)の積立金で運営し、「福祉車輛の贈呈」「ボランティア活動」を柱に活動しています。

2009年度は、全国4か所の福祉施設に計4台の福祉車輛を贈呈しました。これまでに贈呈した車輛は21台になります。また、ボランティア活動として全国702の施設を訪問。従業員が直接施設を訪問して、クリスマスパーティーや大掃除の手伝いなどを実施しています。訪問した施設は1991年度から2009年度までに延べ6,100施設となっています。



福祉車輛を贈呈

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/social/shakaifukushikin/>

世界で

世界中の人々とのつながりを、少し意識して、大切にする取り組み。

「私の知らない世界のどこかで誰かが困っているかも知れない。」
少し想像力を働かせて、少し視野を広げて考えてほしい。

Close Up

学校に通える喜びを、子どもたちへ

みんなで取り組む「学校建設支援事業」

世界には、黒板も水道もトイレもない学校があります。それどころか、机や椅子など基本的な設備さえ不足している学校、校舎そのものがない学校もあります。けれども、どんな学校にも、大きな夢を持った子どもたちがたくさんいます。そんな子どもたちに、学校でしっかり勉強して、自分の夢を叶えてほしい——。東南アジアの国々で学校建設を支援する「学校建設支援事業」は、(財)日本ユニセフ協会とのパートナーシップのもと、そんな想いから始まりました。

テーマは、「学校に通える喜びを、子どもたちへ」。

毎年春に全国のイオン各社の店舗・事業所などで募金活動を行い、多くのお客さまにご協力を

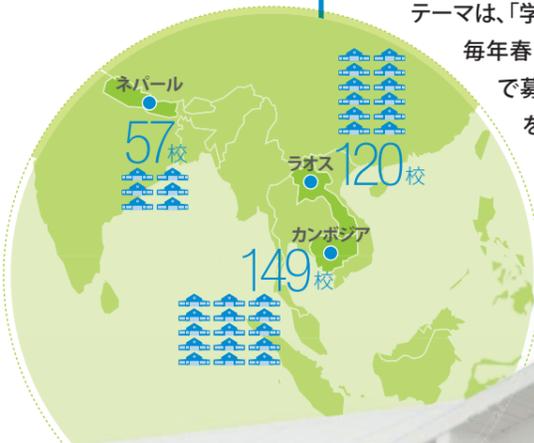
をいただいています。これまでにカンボジアで149校、ネパールで57校、ラオスで120校の学校建設を支援しました。現在10万人を超える子どもたちが新しい学校に通っています。イオンはこれからも、学校建設支援事業を継続していきます。



以前の教室



現在の教室



もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/1p/>

ペットボトルキャップの収集を通じて 途上国の子どもたちを支援しています

イオンは2008年6月から「ペットボトルキャップで世界の子どもたちに笑顔を!!」キャンペーンを開始しました。この取り組みは、店頭でペットボトルキャップを回収し、リサイクル業者に買い取っていただいた対価を貧困に苦しむ子どもたちを支援する3団体※に寄付するものです。2009年度は全国706店舗の店頭で、2億8,801万個のキャップが集まり、15万3,122人分のポリオワクチンや栄養給食、文房具が世界の子どもたちに届けられました。また、ペットボトルキャップの回収には、浪速運送(株)のご支援をいただいています。



回収BOX 贈呈式

※認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」
社団法人「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」
財団法人「日本フォスター・プラン協会(プラン・ジャパン)」

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/social/petbottlecap/>

世界各地の災害復興を支援しています

災害が発生した際、イオンは、被災地の方々が一日も早く元の生活を取り戻せるよう災害復興支援募金活動を実施しています。店頭でお客さまに募金のご協力を呼びかけたり、従業員から募金を募るとともに、イオンからもお客さまからお預かりした募金額とほぼ同額の支援金を拠出し、対象国の駐日大使館などに寄付しています。

2009年度は、スマトラ島沖地震、ハイチ地震などに緊急支援を行いました。国内で発生した災害への緊急支援も含めて、総額で1億6,650万円を、県や大使館、NGOなどの団体に寄付しました。



スマトラ島沖地震被災者へ支援金寄付

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/1p/>

次代を担う青少年の国際的な交流を 促進しています

イオンは、1990年から、次代を担う青少年の国際的な相互理解、親交を深めるために、「ティーンエイジ・アンバサダー(小さな大使)」事業を継続して行っています。

この事業は、世界各国から毎年高校生を日本に招待するもので、「環境」をテーマにしたさまざまな学習をするとともに、大臣や大使への表敬訪問、日本の家庭でのホームステイ、高校への体験入学など、日本人との交流を通して相手の国の文化や習慣を学び合い、相互理解を深めています。

2009年度は、「イオン1%クラブ」設立20周年を記念し、同窓会を開催しました。マレーシア、イギリス、タイ、ブルガリアなど、世界11カ国の歴代の「ティーンエイジ・アンバサダー」総勢183人が来日。国・世代を越えた交流を行い、歴代「ティーンエイジ・アンバサダー」たちの絆が再び深まりました。

2010年までに、マレーシア、イギリス、タイ、ブルガリア、ブラジル、オーストラリア、ペルー、中国(香港)、韓国、カンボジア、インドネシア、ベトナム、ドイツの13カ国、488人の高校生を日本に招待しました。さらに2006年からは、日本の高校生が相手国を訪問するプログラムも実施し、これまでに80人の高校生が参加しました。

イオンは今後も青少年の国際的な相互交流を促進するさまざまな活動に取り組んでいきます。



「We are the World」を合唱

富士山エコツアーに参加する中国の高校生

首相官邸で松野官房副長官を表敬訪問

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/1p/>

イオングループの社会貢献活動——AEON Co. (M) Bhd. (イオンマレーシア) 子どもたちの福祉のための基金を運用しています

AEON Co. (M) Bhd. (イオンマレーシア) は、2004年に福祉基金「With All Our Hearts」(WAOH) Malaysian JUSCO Foundation※1)を設立し、売上金の一部やチャリティー活動によって得た資金を、マレーシアの子どもたちの生活・教育・医療環境の改善に役立てています。2009年度は、約66万RM※2)を養護施設や小児ガン施設、学校などに寄付しました。

※1 2010年1月から「With All Our Hearts」(WAOH) Malaysian AEON Foundationに名称を変更
※2 RM:RM(リンギットマレーシア)はマレーシアの通貨単位。66万RMは日本円にしておよそ1,900万円



洗車チャリティー

「安全・安心」な商品・サービスを提供することが お客さまの信頼に応える基本です。

イオンは、「すべてはお客さまのために」の視点で行動し、
お客さまの日々の暮らしに密着した「安心」と「信頼」を提供します。
そして、お客さまへの貢献を永遠の使命とします。



Q 商品の安全確保のために
どんな工夫をしていますか？

A 商品化までの各プロセスにおいて
厳しい品質管理の仕組みを設けています

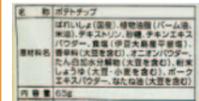
商品の企画・設計から製造委託先の選定、商品仕様の決定、製造管理、販売の各段階において、イオンのプライベートブランド「トップバリュ」商品はすべて徹底した品質管理体制のもとで生産されています。製造委託先の選定にあたっては、製品安全診断、工場衛生調査などを行い、製造工程が適正に管理されているか審査しています。商品の品質表示においても、お客さまが安心して商品を選択できるよう、アレルギー物質や遺伝子組換え情報、栄養成分などを表示。Webサイトや携帯電話のバーコード読取機能を使い、レシピの提案や生産履歴の情報開示も行っています。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.topvalu.net/safety/>

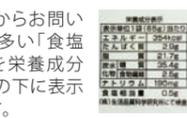
トップバリュの親切表示



アレルギー物質を含む原材料は、すべてカッコをつけて表示しています。



お客さまからお問い合わせの多い「食塩相当量」を栄養成分表示の枠の下に表示しています。



食物アレルギー対象物質25品目※については、含まれる物と生産工程で扱う物をすべて表示。また遺伝子組換えの情報も表示しています。

※食物アレルギー対象物質25品目
義務表示:小麦・乳・卵・落花生・そば・えび・かに(7品目)
推奨表示:あわび・いか・いくら・オレンジ・キウイフルーツ・牛肉・くるみ・さけ・さば・大豆・鶏肉・バナナ・豚肉・まつたけ・もも・やまいも・りんご・ゼラチン(18品目)

Q 改善してほしいところがあるのですが
どうすればよいのでしょうか？

A 「ご意見承りBOX」を設置して
責任者が回答する仕組みを設けています

イオンは、お客さまの声を「経営の原点」と位置づけ、お客さまから気軽に意見をいただける環境を整えるとともに、お客さまの声を品揃えやサービスの改善、環境保全活動などに迅速に反映していくよう努めています。店頭「ご意見承りBOX」と「ご意見・お返事公開ボード」もそうした取り組みの一つで、お客さまからいただいたさまざまなご意見に、店舗責任者が直接回答を記入し、公開しています。また、「トップバリュ」商品はコールセンターを設置して、お客さまの声を商品の開発、改善に活かしていくよう努めています。



ご意見・お返事公開ボードとご意見承りBOX

Voice 2009年度に寄せられたお客さまの声

2009年度にお客さまからイオン本社にいただいたご意見やお問い合わせは59,649件で、2008年度比で4.7% (2,694件) 増加しました。声の内訳は、商品・サービスに対するご指摘・ご意見が約30%、商品に関するお問い合わせが約55%、サービスに関するお問い合わせが約15%でした。食品の表示偽装などの影響で、食品の安全性を不安視するお客さまが依然多いことから、メールやお手紙ではなく、お電話で直接確認される方が増えています。イオンはこれからも一人ひとりのお客さまの声に耳を傾け、商品やサービスの改善につなげていきます。

Q 家族で買い物に行くのが楽しみなのですが、幼児や高齢者が安心して過ごすための工夫はありますか？

A 「誰もが便利に快適に利用できる」
をコンセプトに店舗づくりをしています

1994年に施行された「ハートビル法(2006年から「バリアフリー新法」※)に基づき、イオンでは独自の「イオンハートビル設計基準」を作成。新店舗の建築や既存店舗の改築時に活用しています。また、「ユニバーサルデザイン」の考え方を店舗づくりに積極的に取り入れ、誰にとっても快適・便利でより安全な施設となるよう機能・デザインを強化しています。2009年度は、23施設で新たに「バリアフリー新法」の認定を取得。累計595施設で「バリアフリー新法」の認定を取得しています(2010年2月28日現在)。

※高齢者、身体障がい者などが円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律である「ハートビル法」が2006年12月に「バリアフリー新法」に改定

もっと詳しく知りたい方はこちら
http://www.aeon.info/environment/social/heart_bldg/



段差のない入り口

身障者専用リモコン駐車場



優先ベンチ

立体駐車場の大型誘導サイン

(写真はすべてイオンレイクタウン)

Q 車椅子でも買い物を楽しめるようサポートしてもらえると嬉しいのですが。

A 「サービス介助士※」を養成しています

ご高齢の方や介助が必要な方に安心してお買い物をしていただくために、イオンビープルに「サービス介助士※」の取得を推奨しています。資格取得のための研修では、高齢者の疑似体験、障がいがある方への介助演習などを行っています。「サービス介助士」の取得者は9,275名になりました(2010年2月28日現在)。

※サービス介助士:NPO法人「日本ケアフィットサービス協会」が主催認定する資格



サービス介助士 認定証

Q 高齢社会への対策として、
何か取り組んでいることはありますか？

A 「認知症サポーター」を養成しています

イオンは、厚生労働省とNPO法人「地域ケア政策ネットワーク」が推進する「認知症サポーター100万人キャラバン」に小売業として初めて全社的に参画しています。認知症を正しく理解し、適切にサポートするために、従業員を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催しています。「認知症サポーター」は17,637名、養成講座の講師役の「キャラバン・メイト」は279名になりました(2010年2月28日現在)。



認知症サポーターの目印「バッチ」と「オレンジリング」

マックスバリュ東海(株)で発生した鮮魚の日付管理ルール違反について

グループ企業のマックスバリュ東海(株)の一部店舗において、鮮魚商品の一部を社内の自主基準を超えて商品化し、販売していたことが発覚いたしました。この件を厳粛に受け止め、マックスバリュ東海(株)全社を挙げて再発防止に努めています。再発防止策として、以下の制度・仕組みを導入しました。

1. 「コミュニティ(地域)副店長」公募制度
全店で、地域のお客さまに副店長となっていただき、衛生品質管理状況のチェックなどを担っていただきます。
2. 店舗後方施設の見学会の実施
作業場や商品保管場所などを見学いただくとともに、品質管理に関するお客さまのご意見・ご要望を伺います。
3. 社外専門検査機関による全店立ち入り調査を強化
既存の調査機関とあわせて、新たに社外専門検査機関による年4回の立ち入り調査を実施します。
4. 「品質管理の教科書」の作成と衛生教育の再徹底
コンプライアンスと品質管理に関する40ページの冊子を作成し、全従業員に配布します。教育用テキストとして活用し、従業員への衛生教育を再徹底します。

公正な取引と強いパートナーシップのもと お互いの永続的な発展をめざします。

イオンの理念・考え方に共感し、
ともに挑戦して下さるお取引先さまとともに
高品質な商品・サービスを創造し「お客さま満足」を創出します。



Q 「トップバリュ」商品をつくる
製造委託先の管理はどうしていますか？

A 「取引行動規範」を設けて
遵守を要請しています

イオンは、「トップバリュ」商品の品質管理体制のレベルアップに取り組むとともに、製造委託先との適切な商取引の実践や、製造現場での適切な職場環境の確保といったさまざまな社会的責任を果たしていくために、2003年、製造委託先を対象とした「イオンサプライヤーCoC(取引行動規範)」を策定し、その遵守を要請しています。要求内容は、「国や地域の法令を遵守すること」「人権が尊重された安全で健康な職場環境を確保すること」などで、これまで製造委託先約500社から遵守の宣言書を提出いただいています。また、委託先工場に対して、イオンの認定監査員や外部機関が監査を行う仕組みを整備して、要求内容の確認、改善を図っています。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/social/coc/>

イオンサプライヤーCoC(取引行動規範)要求内容

製造・調達を行う国において法的に定められている社会的責任標準に適合すること

法令遵守 その国の法律・規制に適合する

1. 児童労働：違法な児童労働は許されない
2. 強制労働：強制・囚人・拘束労働は許されない
3. 安全衛生および健康：安全で健康な職場を提供すること
4. 結社の自由および団体交渉の権利：従業員の権利を尊重すること
5. 差別：生まれた背景、信条で差別してはならない
6. 懲罰：従業員に過酷な懲罰を課してはならない
7. 労働時間：労働時間に関する法令を遵守
8. 賃金および福利厚生：賃金および福利厚生に関する法令の遵守
9. 経営責任：イオンサプライヤーCoCの遵守宣言をすること
10. 環境：環境汚染・破壊防止に取り組むこと
11. 商取引：地域の商取引に関する法令を遵守すること
12. 認証・監査・監視(モニタリング)：イオンサプライヤーCoCの認証・監査・監視を受けること
13. 贈答禁止：イオンとサプライヤーの贈答禁止

Q 製造委託先においても人権問題などが生じないよう
未然防止対策はありますか？

A 人権や雇用に関する
国際的な基準の認証を取得しています

イオンは、「イオンサプライヤーCoC(取引行動規範)」の策定に次いで、2004年、日本の小売業として初めて国際基準「SA8000」の認証を取得しました。これは、国際的な労働市場での労働者の人権保護に関する規範を定めたもので、人権保護・雇用差別など8つの要求事項の遵守とそのマネジメントシステムを構築し、改善し続けていくことが求められます。対象となるのはイオン(株)、イオンリテール(株)の本社業務管理と「トップバリュ」のサプライヤー管理です。イオンは「イオンサプライヤーCoC」と「SA8000」を両輪に、今後もお取引先さまとともに適切なビジネスプロセスを追求していきます。

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeon.info/environment/social/sa8000/>

イオンSA8000の目的

1. 職場における従業員の基本的な人権を尊重するとともに、安全・安心と健康を確保し、快適な労働環境を形成します。
2. 対等なパートナーである取引先とともに、人権・労働基準に関わる法令の遵守、およびその継続的な改善を図ることによって、普遍的な人権を尊重し、労働環境を改善していく社会の構築を目指します。

イオンSA8000推進方針

1. 人権および労働基準における国際規範・法令を遵守し、その継続的な改善をはかります。
2. この方針を具現化するために、全従業員に周知徹底する教育プログラムを実行するとともに、この活動の定期的な見直しをおこない、継続的改善に努めます。
3. サプライヤーである取引先に対し、人権および労働基準に関する取引行動規範を制定し、遵守を働きかけ、イオンとともに継続的改善をはかります。
4. この方針を広く公開し適切な情報提供に努め、企業の社会説明責任(SA:ソーシャル・アカウンタビリティ)を全うします。

Q 地域の漁業協同組合と直接取引を
開始したのはなぜですか？

A 持続可能な漁業を通じた
魚食文化の継続が目的です

イオンは、より鮮度の高い水産物を提供することでお客さま満足度を高めていくと同時に、持続可能な漁業を通じた魚食文化の継続を願って、漁業協同組合との直接取引を行っています。JFしまね(島根県)、JFいしかわ(石川県)、天羽漁協組合(千葉県)、江ノ島片瀬漁協組合(神奈川県)に続いて、2009年11月からはJFやまがた(山形県)との直接取引を開始しました。イオンは、今後も全国漁業協同組合連合会との対話などを通じて、お客さまに喜ばれ、また水産物流通の課題解決にも役立つ取り組みを進めていきます。



漁船一隻が漁獲した鮮魚を
イオンがすべて購入

Q 郷土の味、伝統の食文化が失われつつあることに
対して何か対策を講じていますか？

A 日本の優れた食文化を支える食材や
伝統技術を継承する活動を行っています

イオンは、全国各地で郷土の味を守り続ける多くの生産者の皆さまとともに、「フードアルチザン(食の匠)」活動を進めています。この活動は、日本の優れた食文化を支える食材や伝統技術を、地域の方々とのパートナーシップのもとで保護・保存、継承していくことを目的としています。



「桜島大根」の収穫

もっと詳しく知りたい方はこちら
<http://www.aeonretail.jp/kodawari/artisan/>

Q 「日常の買い物でできる国際貢献」があると
聞きましたが、どのような活動ですか？

A 途上国の原料や商品を購入し、支援する
「フェアトレード」を実施しています

イオンは、日常のお買い物を通して国際貢献に参加していただける「フェアトレード」商品の販売を2004年から始めています。「フェアトレード」は、発展途上国で支援が必要な生産者と原料や商品を労働に見合う価格で取引することで、生産者の経済的・社会的自立と環境保全を支援する活動です。イオンは、国際フェアトレードラベル機構認証を受けたコーヒーを「トップバリュ」商品として販売し、できるだけ多くのお客さまにフェアトレードの趣旨をご理解いただき、継続した支援につなげていきたいと考えています。また、「ザ・ボディショップ(日本では(株)イオンフォレストが展開)」は、「援助ではなく取引を!」をコンセプトに、独自のフェアトレードプログラム「コミュニティトレード」を実施しています。2009年度は、サモアのNGO「ウイメン・イン・ビジネス・ディベロプメント」とココナツのコミュニティトレードを開始。現在では20カ国以上約30のパートナーとの取引によって約25,000人の人々から良質な原料や雑貨を仕入れていたり、店頭と並ぶ製品の7割近くにコミュニティトレードによって調達された原料が配合されています。



サモアの生産者
(ザ・ボディショップ)



フェアトレードコーヒー(トップバリュ)



FLO(国際フェア
トレードラベル機
構)の認証マーク

Voice 直接のお取引先さまである漁業生産者の方の声

イオンとの直接取引で水揚げされた魚は、直接イオンの店頭と並びます。このため、お客さまが魚をお買い上げになる様子を実際に見ることができ、大変うれしく思います。また、漁船一隻が水揚げした魚のすべてがイオンに買い取られて販売されるようになり、馴染みのない魚については食べ方や調理法などの情報を提供することで、おいしく召し上がっていただいているという点も、漁業生産者としてやりがいを感じています。

お客さまから「次回、島根の魚はいつ販売されるの?」との問い合わせがあったと聞き、非常にうれしい想いです。今後も、私たちはイオンとともに、新鮮な魚をお客さまのもとにお届けし、魚食文化の需要喚起に貢献していきたいと考えています。



漁業協同組合 JFしまね
中尾 由岐夫さん

従業員とイオン

イオンで働くすべての従業員にとって「働きやすい職場」「働きがいのある職場」づくりに努めています。

イオンは、従業員の「志」を聞き、従業員の「心」を知り、従業員を活かすことを人事の基本理念として、イオンピープルー一人ひとりの「会社・家庭・地域」生活をともに充実することをめざします。



Q ワークライフバランス対策として実施している施策を教えてください。

A 従業員が育児や介護と仕事を両立できるよう、支援制度を設けています

たとえばイオンリテール(株)では、育児勤務期間を法定より長く取得可能にするなどの支援制度を充実させる傍ら、「次世代育成支援対策法」に基づいた行動計画に沿って、従業員に支援制度を普及させる取り組みを推進。この結果、2010年1月に次世代認定マーク「くるみん」を取得*しました。

*2009年6月現在で取得しているグループ企業:(株)マイカル、琉球ジャスコ(株)、マックスバリュ中部(株)、マックスバリュ西日本(株)、(株)カスミ、イオンモール(株)、イオンクレジットサービス(株)

Q 従業員のキャリアアップをどのように支援していますか?

A 新しい知識や資格を身につけるチャンスすべての従業員に用意しています

個々の従業員がめざすキャリアプランを実現できるよう、将来めざす職務について学べる講座「イオンビジネススクール」や実務に即した社内認定資格を用意しています。さらに、新たな事業などへの参加を呼びかける「社内公募制度」で、従業員自らキャリアを形成していく機会を設けています。

Voice 従業員の声

イオンの人事制度は、「頑張ればチャンスを与える」制度です。新事業などに際して人員を募る社内公募制度はその好例で、現在の職種が何であれ、応募すれば希望の職種につける可能性があります。

私の場合はパートタイムで働くコミュニティ社員として2002年に入社しましたが、2006年からフルタイムの勤務に変更し、社内資格のステップアップをめざしました。また、社内公募の存在を知り、応募の機会が来るのを待って

Q パートタイムで働く従業員に対して配慮していることはありますか?

A 就業形態に関わらず、教育や昇進のチャンスを得られるようにしています

たとえばイオンリテール(株)では、従業員区分による役割・期待・処遇の違いをなくし、能力・成果・意欲によって成長を続けることができるよう「コミュニティ社員*制度」を導入しています。教育・登用機会の違いをなくし、誰もが上位職へチャレンジできる仕組みとしています。

*コミュニティ社員:転居転勤をせずに特定の地域の中で勤務するイオンリテール(株)の従業員の総称、時間給勤務と日給月給勤務があります。

Q イオンで働く女性従業員が十分に能力を発揮できるよう、取り組んでいることはありますか?

A 男女がともに活躍する企業をめざす「ポジティブ・アクション」を推進しています

厚生労働省が主催する「女性の活躍推進協議会」に参加し、「ポジティブ・アクション」の推進に向けて活動しています。2010年4月には「ポジティブ・アクション宣言」を策定し、すべての従業員に対し平等に活躍の機会を提供することなどを取り決めました。

いました。そして2009年、ペット商品部員の募集に応募し、合格。幼い頃からの夢だったペット関連の職種につくことができました。チャンスが平等な分だけ個人の責任も重くなりますが、やりがいもひとしお。現部署での業務に精一杯励んでいきたいと思っています。



イオンリテール(株) 住居余暇・H&BC商品部 米山しのぶ

Webサイトのご案内

「環境・社会貢献活動」サイトでは、イオンのさまざまな環境保全活動・社会貢献活動についてご紹介しています。

●トップページ



<http://www.aeon.info/>

●環境・社会貢献活動



<http://www.aeon.info/environment/>

●イオン 環境・社会報告書

本報告書のPDFファイルをダウンロードいただけます。また、マネジメント体制やパフォーマンス・データを追加してご報告する「イオン 環境・社会報告書<詳述版>」をWebサイトに掲載します(2010年7月公開予定)。こちらについても是非ご覧ください。

- 「イオン 環境・社会報告書<詳述版>」主な掲載項目
 - マネジメント体制
 - コーポレート・ガバナンス
 - コンプライアンス
 - リスクマネジメント
 - 環境保全活動
 - 環境マネジメント
 - イオン環境理念
 - 環境方針
 - 環境マネジメントシステム
 - 環境会計 など
 - 環境パフォーマンス
 - 社会貢献活動
 - 地域社会とイオン
 - ステークホルダーに対する責任
 - お客さまとイオン
 - お取引先さまとイオン従業員とイオン

グループ環境最高責任者メッセージ

昨今、地球温暖化対策に関する法案や省エネ法、廃棄物処理法の改正など、国の規制が強化されています。また地方レベルでも、東京都をはじめ数多くの自治体で環境への規制を進めています。こうした規制への対応は必要に迫られて実施するのではなく、いち早く積極的に対応することが重要であると認識しています。イオンではかねてよりISO14001の認証を受けるなど、環境マネジメントシステムを運用してまいりました。今後、環境規制が厳しさを増すなかで、経営の最重要課題の一つとして、グループ全体のマネジメント力をさらに強化してまいります。

イオンは、2008年3月に公表した「イオン温暖化防止宣言」で、CO₂の総排出量を2012年度に2006年度比で185万t-CO₂削減する目標を掲げました。この目標を達成するために、イオングループ各社では、店舗や商品を通じた活動、お客さまとともに実施する活動など、さまざまな組織横断的なプロジェクトを立ち上げて取り組みを進めています。

2009年度は、店舗設備面でエコストア開発、省エネ設備導入を進め、2006年度比58万t-CO₂を削減しました。また商品・物流面では環境配慮型商品の販売拡大や包装資材の簡素化などで同24万t-CO₂を削減。さらにお客さまとともにレジ袋削減や店頭リサイクル回収などで同20万t-CO₂を削減するなど、合計で103万t-CO₂削減することができました。

こうした活動を進めるなかで、従業員自身もこれまで以上に省エネルギーや省資源の認識が高まっていることを実感しており、今後さらに取り組みを強化してまいります。

現在、国際社会では、社会的責任規格(ISO26000)の発行に向けた議論が進んでいます。この規格ではコンプライアンスを含むコーポレート・ガバナンスの強化とともに、あらゆる人権を尊重することの重要性が謳われています。

人権は言うまでもなくすべての人に与えられた基本的権利であり、「イオンの基本理念」においても人権の尊重を掲げ、意識醸成や行動変容を推進してまいりました。さらにこうした取り組みをグループの従業員に留まらず、パートナーである国内外のお取引先さまにも第三者の評価を取り入れながら広げており、社会的責任を果たしていただけるよう要請しています。



イオン株式会社 取締役 兼 執行役 グループ環境最高責任者 林直樹



「夢のある未来」を、皆さまとともに。

くらしを支えるサービスを提供する、イオングループ

イオンは、国内外190社を超えるグループ企業が一体となり、地域の特性に合わせた快適なショッピングと便利なサービスを提供しています。くらしをサポートする多彩な機能を備え、お客さまの便利で快適なくらしに貢献しています。

■純粋持株会社

- *イオン(株)

■GMS(総合スーパー)事業



- イオンリテール(株)
- *イオン北海道(株)
- * (株)サンデー
- *イオン九州(株)
- イオンスーパーセンター(株)
- イオンマルシェ(株)
- (株)ボンベルタ
- (株)マイカル
- 琉球ジャスコ(株)

■SM(スーパーマーケット)事業



- *マックスバリュ中部(株)
- *マックスバリュ西日本(株)
- *マックスバリュ東北(株)
- *マックスバリュ東海(株)
- *マックスバリュ北海道(株)
- * (株)マルエツ
- * (株)いなげや
- * (株)カスミ
- * (株)ベルク
- (株)光洋
- マックスバリュ関東(株)
- マックスバリュ北東北(株)
- マックスバリュ九州(株)
- マックスバリュ中京(株)
- マックスバリュ長野(株)
- マックスバリュ北陸(株)
- マックスバリュ南東北(株)

■DS(ディスカウント)事業

■戦略的小型店事業



- *ミニストップ(株)
- オリジン東秀(株)

■ドラッグ・ファーマシー事業



- * (株)CFSコーポレーション
- * (株)ツルハホールディングス
- * (株)クスリのアオキ
- *グローウェルホールディングス(株)
- * (株)メディカル光
- タキヤ(株)
- (株)ウェルパーク
- シミズ薬品(株)

■総合金融事業



- *イオンクレジットサービス(株)
- *AEON CREDIT SERVICE (ASIA) CO., LTD.
- *AEON THANA SINSAP (THAILAND) PLC.
- *AEON CREDIT SERVICE (M) BERHAD
- (株)イオン銀行

■ディベロッパ事業



- *イオンモール(株)
- ロック開発(株)

■サービス事業



- *イオンティライト(株)
- * (株)イオンファンタジー
- * (株)ツヴァイ
- *チェルト(株)
- (株)イオンイーハート
- イオンシネマズ(株)
- ジャスベル(株)
- リフォームスタジオ(株)
- (株)ワーナー・マイカル

■専門店事業



- * (株)ジーフット
- * (株)コックス
- * (株)ブルーグラス
- * (株)タカキュー
- アビリティーズジャスコ(株)
- (株)イオンフォレスト
- (株)イオンボディ
- タルボットジャパン(株)
- プランシエス(株)
- ペットシティ(株)
- (株)未来屋書店
- (株)メガスポーツ
- メガパトロ(株)
- ローラアシュレイ ジャパン(株)
- ATジャパン(株)
- クリアーズ日本(株)

■グループIT・デジタルビジネス事業



- イオンアイビス(株)
- (株)イオンビズティー
- (株)デジタルダイレクト

■アセアン事業



- * AEON Co. (M) Bhd.
- AEON (Thailand) CO., LTD.

■中国事業



- * AEON Stores (Hong Kong) Co., Ltd.
- Beijing AEON Co., Ltd.
- Qingdao AEON Dongtai Co., Ltd.

■商品機能等

- * (株)やまや
- アイク(株)
- イオンアグリ創造(株)
- イオングローバルSCM(株)
- イオン商品調達(株)
- イオントップバリュ(株)
- イオンペカリーステム(株)
- イオンマーケティング(株)
- コルドンヴェール(株)
- (株)生活品質科学研究所
- (株)フードサプライジャスコ
- (株)マイカルカンテポーレ
- Tasmania Feedlot Pty. Ltd.
- イオンデモンストレーションサービス(有)

*印は株式公開企業

- イオン1%クラブ
- (財)イオン環境財団
- (財)岡田文化財団

2010年3月現在